

こんな人を求めています！

少年を受け入れる温かい心と 冷静な判断力を持つ人材

- ・「人」が好き、「自分」も好きな人
- ・偏見を持つことなく、一人の少年の人格を尊重し、誠実に対応できる人
- ・「○」と「×」だけでなく、「△」という柔軟な発想で判断できる人
- ・少年に裏切られても冷静に受け入れられる広く温かい心を持つ人

行動力を発揮し、 豊かなコミュニケーションが取れる人材

- ・問題の解決に向け、周囲の意見を取り入れつつ、チームの一員として行動できる人
- ・自ら挑戦しようとする行動力のある人
- ・粘り強く努力できる人

高い倫理観を有し、少年のモデルとなる人材

- ・高い倫理観と道徳観、一般的な社会常識を備え、少年の健全なモデルとなれる人
- ・犯罪被害者の置かれた状況や心情を踏まえて、
生命の尊さ、相手のことを考える大切さを伝えられる人
- ・公私のバランスを適切に保てる人

給与等

少年院・少年鑑別所・刑務所に
勤務する法務教官は、公安職として
一般の公務員より約 12% 高い
給与水準となります。
基本給以外に各種手当が支給されます。

制服：貸与
宿舎：勤務地に近く原則無料

休暇等

1 週当りの勤務時間は、
38 時間 45 分（週休 2 日制）。
年次休暇（年間 20 日間）、病気休暇、介護休暇、
特別休暇（夏季休暇、結婚・出産に伴う休暇等）

勤務地

勤務地は希望を考慮して決定しており、
原則として採用庁を所管する
矯正管区の管轄区域内で異動します。

法務教官のことを
もっと知りたい方へ



矯正職員
採用広報
ホームページ

採用試験について
知りたい方へ



法務省専門職員
採用試験
ホームページ

インターンシップ・
業務説明会について
知りたい方へ



法務省人間科学系
インターンシップ
ホームページ

法務 教官 子どもに寄り添い、 励ます仕事です。

法務教官 になろう！

子どもに寄り添い、励ます仕事です。

公安職と教育職を
兼ね備えている

子どもと真摯に向き合い
更生に導く

人との関わり合いの中で
やりがいを感じられる

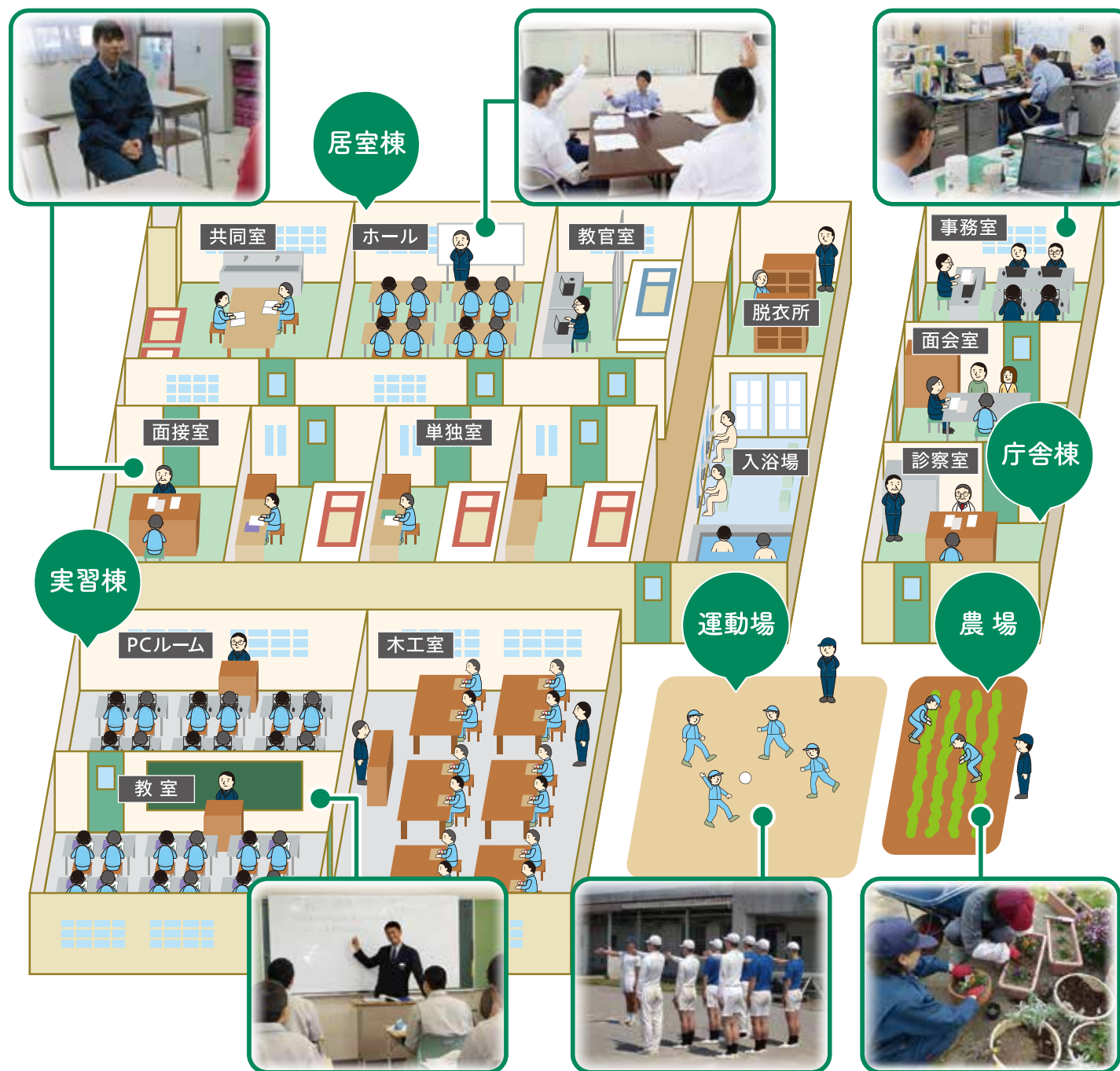
法務教官ってどんな仕事？

法務教官は、主に少年院や少年鑑別所、あるいは刑務所などで教育・指導を専門とする法務省所属の国家公務員です。そこに入ってきた人たちの立ち直りのために真摯に向き合い、社会復帰を助ける仕事です。

■ 法務教官のフィールド

※少年院をイメージしています。

Job field



法務教官のやりがいとは？

日常生活全般にわたり、彼らを「ひとりの人間」として尊重し、厳しさの中にも優しさをもって接する中で、健全な大人のモデルを示して、更生に導く重要な役割を担います。彼らの向こうには「被害者」がおり、反省のころを育てながら、社会の厳しさと生きる喜びを伝えます。それによって人が大きく変わっていくのを間近で見届けられることは、他では得られないやりがいとなります。

先輩の声

少年指導においては、学力のみが重要視される世界ではない。相手を思いやる心、自ら範を示す姿勢、粘り強さが教官には必要。

採用15年目/30代男性

刑務所での勤務では、自分よりも年上の人がいるが、たとえ犯罪をしていたとしても、年長者というリスペクトは忘れてはいけない。

採用18年目/40代女性

難しさと面白さが合わさっており、正解がないのが少年処遇。ただ、答えのない処遇は大変さもあるが、答えがないからこそ面白さがある。

採用13年目/30代女性

私は社会経験もなく法務教官になったが、職業人として未熟なところについて、先輩職員が愛情をもって熱心に叱ってくれるのでありがたい。

採用1年目/20代男性

親からは、法務教官として採用されたことについて、責任ある仕事なので、誇りに思うと言われたときは嬉しかった。

採用1年目/20代男性

Career Plan...

01 みんなで研修

採用施設での基本研修の後、矯正研修所に入所して研修を受けます。そこで多くの同期と一緒に法務教官としての基礎を学びます。



全員が同期

02 現場で実践力を磨き、スキルアップ

研修終了後は、主な業務として、少年たちの寮担任として当直業務を行いながら、実践力を磨きます。おおむね採用後5年目に専門官に昇任し、より専門性を向上させる応用科研修を受けた後、主任・係長といった責任のある立場で勤務します。



医務課との調整

03 こんな選択肢も！

- 選抜試験を受け、上級幹部職員への昇進を目指す道も。
- 法務本省（大臣官房、矯正局など）や矯正研修所、矯正管区等で勤務する道も。
- 海外・国内留学や在外公館（大使館・領事館）勤務の道も。



職員の育成

ワークライフバランス

ワークライフバランスの推進のため、年次休暇取得の促進のほか育児休暇取得後も家庭と仕事が両立できるよう、各種支援制度の活用に力を入れており、また、各施設では、野球やサッカー、ジョギング、ハイキング、スキー等のクラブ活動が活発に行われています。

